【給食協会賞】給食の時間

丈山小学校　美濃　幸奈

「最初はグー、じゃんけんぽん！」

給食の時間、教室に元気な声が響きます。ビビンバのおかわりをかけた真剣勝負、おかわりじゃんけんの始まりです。勝って思わずガッツポーズする人、負けて悔しそうな顔をする人。そんなやり取りも、今では給食の楽しみの一つになっています。でも、このにぎやかな給食の時間は、ずっと当たり前だったわけではありません。

低学年のころは、新型コロナウイルスの影響で黙食でした。

「カラン。」

「ピチャン。」

教室に響くのは、食器とスプーンが当たる音や汁物をすくう音だけでした。友達と話すこともできず、前を向いて静かに食べていました。そのころは、給食を食べるだけの時間だと思っていました。

中学年になると少しずつ学校生活が戻り、高学年になると教室には笑い声が戻ってきました。友達と話しながら食べる給食の時間が、どんどん楽しく感じるようになりました。

私が好きな給食はビビンバです。献立表に「ビビンバ」と書いてある日には、朝から、「今日は給食、ビビンバだ！」と楽しみになります。ビビンバの日はいつもより食欲が出て普段よりたくさん食べられます。おいしいビビンバを友達と一緒に食べる時間は、私にとって楽しみな時間です。日本の学校なのに韓国料理が出るなんて不思議だなと思いながら食べていました。給食では、日本の料理だけでなく、いろいろな国の料理を知ることができるのも楽しみの一つです。

私は、この六年間で給食はただおなかを満たすだけの時間ではなく、友達と笑い合い、同じ時間を過ごす大切な時間だと気づきました。

友達の笑い声が響く給食の時間も、私にとって大切な思い出です。卒業まであと少し。小学校で給食を食べられる日も少しずつ少なくなっていきます。これからも「カラン」や「ピチャン」という音だけでなく、「おいしいね」と話す声や、おかわりじゃんけんでみんなが笑う声も大切にしたいです。一日一日の給食の時間を友達と楽しみながら、卒業までたくさんの思い出を作っていきたいです。